



陽気だより

昭和41年3月号から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で66年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

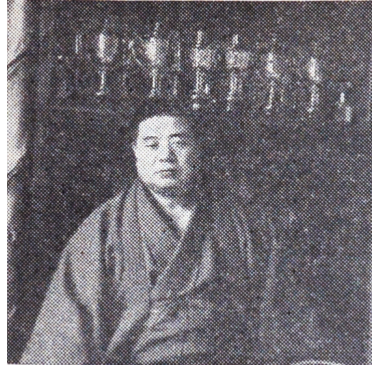
私の見た天理教

自力と他力の間

毎場所前には欠かさず教会へ参拝するという、
往年の名横綱が語る相撲界の秘話

春日野清隆

(昭和四十一年当時、
元横綱・栃錦、相撲協会理事)



自力と他力の間

現役時代の私の相撲については、私自身がとやかく言うよりも、テレビ解説者の説明の方が広くゆきわたっている。これに対し、私の方からあえて異論を唱える気持は毛頭ないが、すべての解説者が見落

としていて一つのことについて触れておきたい。
ご承知のように、相撲界には「ゲン」とか「縁起」とかをかつぐ風習がある。たとえば、四つ足の動物は四つんばいを意味し、負けにつながるから食べないとか、いろいろそういうことが多いのであるが、現役時代の私は、そういう相撲界の風習を少しも信用しなかったばかりか、むしろ反対に、人がそうなら自分はその反対をいって勝ってやろうと思っていた。事実、それで幾度も勝ったことがある。
ある力士が、ある着物をきて、ある道を通って行って、その日の勝負に勝った。

翌日も「ゲン」をかついで、同じ道と同じ着物をきて競技場に臨み、幸運にも勝った。それが相撲界でいう「ゲン」である。
私はそういう場合、あえて反対の道を通り、違った着物をきて、競技に臨んだのである。つまり、現役時代の私は、絶対自力の世界に生きていたわけである。神も仏も私に教えてくれる人はいなかったし、私もそれで「間に合っていた」のである。
こうして私は、径四・五メートルの土俵上を男の根性場として、好きなようにあばれ回り、二十年間の長い現役生活に別れを告げたのである。
こう書くと、私は大変ひとり勝手な、高慢な人間に聞こえるかもしれないが、最近私は、そういう自分の気負った考え方に、一つの反省を持つようになった。なぜかという点、なるほど、勝負の場面においては、私は絶対自力で戦ってきたつもりだったが、そういう私の人間形成の背後には、私を育ててくれた心のかたとして、無数の人々の愛情と応援があったことに気付いたのである。

現役時代の私が、実力相応に、いな、ある意味ではそれ以上に活躍できたというその背景には、師匠の親心あふれる指導をはじめとして、数え切れない人々の親切と慰めがあった。若く活力にあふれた時代なので気付かなかつたが、すべての幸運を自分ひとりの力のみで勝ち取ったように思うのは、とんでもない思い上がりであることを、反省させられたのである。
中でも、私がスランプの時、へや(部屋)の長年の後援者の一人であった久保奥様(ウテナ化粧品本舗前社長夫人)や、高橋千山分教会長夫人様(牛込大・白子分部内)の信仰にもとづく指導がいかに大きかったか。お先真つ暗な、心のうさの晴れない時、ポツリポツリとお話しくださることばが、そのころの私にとって、どれだけ大きな慰めとなったか、今思ってみても計り知れないものがあるような気がする。
人間が力以上のことを望むのは無理であるとしても、与えられた力を最大限に発揮するのには、なんらかの意味での心の拠り所が必要である。

月刊『陽気』
定期購読受付中 お知らせ

お店まで買いに行くのが大変。
忙しくて購入するのを忘れた。
定期購読はそんな手間を省きます。
毎月20日前後にご自宅宛に発送いたします。
(例：11月号は10月20日)

陽気 11月号

特集
おびや許しの不思議
連載
◎人権：“人として”生きている
◎医の目・鷹の目 ほか

定期購読料金
1年分…3,420円(送料込)
半年分…1,710円(送料込)

購読に関する問合せ先
☎0120-920-398 養徳社 業務部窓口

私が現役を退き、相撲の親方として後進の指導に当たってみて、いっそうそのことの重大さに気付かされたのも当然である。

昭和三十五年九月、私は久保奥様のすすめに従って、千山分教会に初参拝した。一門の弟子たちにも、現役時代の私同様、なんらかの意味で心の支えを与えてもらいたいという理由にほかならない。

それ以来私は、毎場所前には、久保奥様に伴われて必ず千山分教会に参拝し、場所中の祈願を行うことにしている。

真柱様の印象

私が天理教の真柱様に最初にお会いしたのは、昭和三十一年の横綱昇進直後であったように思う。むろん、天理教の教えについては、久保奥様を通じていくらか知っていたが、おちばへ運んだのは、その時が最初であった。

真柱様については、大教団の象徴となる人だけあって、包容力のある、徳のある方という印象だったが、この印象についても、最近の私は、以前には感じられなかった真柱様の偉さを感じるようになった。

その理由は、自分が相撲の親方となり、六、七十人の弟子を扱う立場となってみて、初めて思われることだが、何百万の信者の親方として立てられる上には、どれだけのご苦労があるうか、ということである。

一人一人顔も違い、性格も違う弟子の丹精に、それこそ

養徳社営業予定

赤字は休業日

11月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

おつとめ (1日～15日) 朝6:30
夕5:30
(16日～30日) 朝6:45
夕5:15

12月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

おつとめ (1日～31日) 朝7:00
夕5:00

10月26日発刊

猫犬から子どもは変わる

- 子育てに悩む人
- 子育て相談にのる人
- 若者の育成の参考に
- 人間関係改善のヒントに

古市俊郎
(心理カウンセラー・福之泉分教会長)

B6判208頁・定価=1,000円+税
図書出版 養徳社 ☎0120-920-398
©いしかわかずはる、Courtesy of YUKARI ART



血道を上げていている私に比べて、悠々たる真柱様のご風格が、改めてしのばれる次第である。

また、何回かのおちば参りの結果、一等感心したのは、若い男女修養科生たちが生き生きとひのきしんに励む姿である。

日本中の青年男女が、皆おちばを目指して修養科へ入学するようになったら、日本の社会も相当よくなるのではないかと思われるし、それやこれやで、私の天理教に期待するものは多いのである。

 Facebook で最新情報をチェック!
<https://www.facebook.com/yotokusha>

この「陽気だより」を支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。

<書籍・陽気のご購入方法について>前払いでお願いしております。お近くのゆうちょ銀行に備え付けの振込用紙をお使い頂き、[住所、氏名、電話番号、書名(陽気希望月号)、冊数]を明記の上(振替口座番号00990-3-17694番 加入者名(株)養徳社)へご送金ください。手数料はお客様負担となります。ご入金を確認後、速やかに商品を送らせて頂きます。ご不明な点は養徳社までお問い合わせ下さい。フリーダイヤル0120-920-398 養徳社 業務部